『地域の力に感謝の心』

小城市立牛津小学校　6年　藤島　智道

ぼくは「社会を明るくする運動」と聞いた時、一人の人が頭にうかびました。それは、毎朝ぼくが登校する時に通学路に立ち子供達を見守って下さる大屋さんです。大屋さんは仕事を定年退職した後、牛津町に不しん者が出ていたそうで、子供とかかわることがしたいと思っていたこともあり、初めは防犯のために通学路に立ち始めたそうです。子供達の安全のために立ち始め、今年で16年目になるそうです。ぼくが生まれる前から、立ってあることを知りビックリしました。今では毎朝子供達に元気をもらっているそうです。立つ時にうでにはめてある黄色のわん章を見せてもらうと、「防犯」と書いてあるもので、16年間毎朝使用され、わん章はは古くなりうらの方がボロボロと破れていました。大屋さんが自分でテープで、ほ修しながら大切に使ってあることがわかりました。雨の日も風の日も毎朝立ってある大屋さんですが、年に数回立たない時があるそうです。それは遠方への、かんこんそう祭に出席する時の年1、2回くらいとの事でした。毎朝立ち、子供を見守る大屋さんが立ってない日があると、ぼくは必ず「今日、大屋さんどうしたのかな」と心配していました。病気でお休みされていた訳ではないことがわかり安心しましたと伝えると私もいつも通る子供が登校しないと心配するけど、子供達も私と同じように思うとね。とうれしそうに話をしてくれました。大屋さんが毎朝通学路に立つようになり、あいさつを交すだけでな

く、子供達と笑顔で何かコミュニケーションがとれないかと考えていた時テレビである会社が「ハイタッチでのあいさつ」をルールにし、コミュニケーションが活発になったことを知り、自分もさっそく、ハイタッチあいさつをとり入れてみることにしたそうです。最初は、はずかしい気持ちと子供達にハイタッチが受け入れてもらえるか不安だったそうです。でも子供達はすんなりと受けいれてくれて、あいさつだけでなく会話につながり子供達とコミュニケーションがとれるようになったよと話してくれました。ぼくが大切だと思うことの一つに「あいさつ」があります。知っている人がいると少しもどってでも、あいさつをするように心がけています。あいさつをすることで地域の方々とのきずなを深めることができます。おたがいの顔や名前を知り、見かけない人がいたら、けいかいすることができます。地域の方々は子供達の顔と名前を覚え、日々あたたかく見守ってくれていることを感じます。大屋さんだけでなく通学路で地域の方々は、みんな笑顔でぼく達を見守ってくれます。笑顔であいさつを交わし安全を守ってくれます。牛津小学校の通学路には大屋さん、長﨑さん、宮地さんの3人の方が通学路の決まった所で子供達の安全な登校をサポートしてくれています。夕方には青パトの方がパトロールしてくださっています。夏休みに、夏祭りの子供ボランティアに参加しました。子供達のために、大人の方々が話合ったり協力する姿を見ると、ぼくもそんな大人になりたいと思いました。地域の人達がぼくたちのために色々な活動をしてくださっていることを知り感謝する気持ちを持つことができました。地域の方々に大切に守られているおかげで、ぼくたちは安心して成長していくことができます。ぼくは元気に気持ちのよいあいさつをしたり、地域の活動に参加したり、地域に住む一人として人とのつながりを大切にしていき

たいと思います。これからも、色々な所でたくさんの人と関わり合いながら大人になっていきます。将来、地域の大切な力になれるよう、立派な大人になりたいと思います。